

自己評価報告書

平成23年4月28日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520457

研究課題名（和文）日本語日本事情教育における汎用性の高い教育シラバス開発のための基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Studies for a Versatile Syllabus of Lingua-Cultural Education

研究代表者

砂川 裕一（SUNAKAWA YUICHI）

群馬大学・社会情報学部・教授

研究者番号：90196907

研究分野：言語文化教育論

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：言語文化教育論、日本語教育、日本事情教育、比較文化基礎論、リテラシー論、社会哲学、文化哲学、言語哲学

1. 研究計画の概要

本研究の多面的・複合的な目的は以下の4点に整理することができる。

1) 非日本語母語話者に対する「日本語日本事情教育」を言語教育論的、比較文化論的、現代社会論的な観点から統括的にとらえ返し、2) 日本国内・外の「日本語日本事情教育」ないしは「日本語日本文化教育」及び「日本研究専攻の学部・大学院の専門教育」の多様性の根底において共有されるべき、「言語・社会・文化・教育を包括する言語文化的・社会文化的な実践力育成教育のための基礎理論」の構築を目指し、3) その基礎理論構築のための考察を土台として踏まえながら、様々な言語文化教育現場の特殊性を通底するような「汎用性の高い教育シラバス案の開発・考案」を目指そうとするものである。4) 本研究の成果は、進捗状況に応じて随時、学会や研究会などに於いて発表し、批判的コメントを吸収し、最終的には報告書にまとめ出版する計画である。

2. 研究の進捗状況

思想的・哲学的な立脚点を確保するための系統的・思索的な文献研究を継続・深化させ、多言語・多文化社会ないしは複言語・複文化社会における「言語文化教育論」ないしは「言語・社会・文化・教育の統括理論としてのリテラシー教育論」、そして「言語習得に関わる認知発達・言語発達・行動発達論的な研究成果」に関する諸論考についての文献研究を進め、領域的な視界を拡充しつつ理論的・実践的なアイデアに関する知見の継続的

蓄積を進めている。他方において、教育現場における具体的・実践的な教育活動実態の特徴や可能性を把握するため、海外から研究者を招聘して知見の共有を図り、また海外の日本研究の大学院における授業を参観して専門的な日本研究教育の一端について実地に見聞し関連資料の収集も行っている。さらに日本国内・外での言語教育学系、社会哲学系の研究会などに参加して知見を拡大するとともに関係者からの聞き取りを行うなど、言語文化的コミュニケーションの実態やアカデミックな異文化間コミュニケーションの実情をつぶさに観察する機会を持ち、貴重なデータを収集し、関連領域に関する視野を押し広げる作業を進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

文献研究や情報収集がほぼ順調に進んでいるため、上記のように判断した。知見や資料の体系的整理に若干の遅れがあるが、これは大震災対応のための大学内外の業務によるものであり、既に回復基調にあるため、ほぼ順調に進展していると考えられる。

4. 今後の研究の推進方策

知見や資料の蓄積をさらに進めると共に、体系的・系統的な整理をすすめ、報告書にまとめることを企画する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計2件)

①リテラシー編集委員会(門倉正美、川上郁雄、佐々木倫子、砂川裕一、牲川波都季、細川英雄)編、くろしお出版、『リテラシー』8(WEB版)(<http://literacies.9640.jp/web01.html>)2011.1.15

②リテラシー編集委員会(門倉正美、川上郁雄、佐々木倫子、砂川裕一、牲川波都季、細川英雄)編、くろしお出版、『リテラシー』7(WEB版)(<http://literacies.9640.jp/web01.html>)2010.7.15